



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和8年8月26日
さいたま市立土合小学校

2学期のスタートにあたり



校長 日比 圭都

長い夏休みが終わり、いよいよ2学期がスタートしました。

夏休み前、私は子どもたちに「郷土愛」について話をしました。

「夏休みには、地域のお祭りやイベントがたくさんあると思います。ぜひ積極的に参加して、土合地区をもっと好きになってほしい。」そんな願いを込めて話をしました。夏休み中、子どもたちは地域の行事やさまざまな体験を通して、地域のよさや人々の温かさに触れる機会があったことと思います。また、地域の皆様が子どもたちの成長を温かく見守り、支えてくださっていることも実感できたのではないのでしょうか。私自身も、地域のお祭りや育成会主催の夏祭りに参加させていただきました。楽しいひとときを過ごすとともに、このような郷土愛にあふれた自治活動が地域の活性化につながっていることを改めて感じました。こうしたつながりの輪がさらに広がり、子どもたちが「土合が好きだ」と胸を張って言える地域になっていくことを願っています。

さて、今年の夏休みは、全国高等学校野球選手権大会をテレビで観戦していました。試合の合間には各校の「ふるさと紹介」が流れ、どのチームも都道府県の代表としての誇りを胸に甲子園へ挑んでいる姿がとても印象的でした。そこには、自分たちの地域を愛し、その期待を背負って戦う選手たちの姿がありました。

私は特に応援している学校があったわけではありませんが、試合を観るたびに胸が熱くなり、思わず涙がこみ上げてくる場面が何度もありました。なぜ涙が出るのだろうと考えてみると、きっとグラウンドで懸命にプレーする選手たちの姿から、その陰にある努力や苦労を想像してしまうからなのだと思います。暑い日も寒い日も練習を重ね、仲間と励まし合いながらこの日を目指してきたこと。その頑張りを支え続けてきた家族や指導者の思い。そして、勝者にも敗者にも、それぞれにしか分からない物語があること。そうした一人ひとりの背景に思いを巡らせると、自然と胸がいっぱいになります。だからこそ、子どもたちが一生懸命に頑張る姿は、多くの人の心を動かすのでしょう。

子どもたちの成長は、本人の努力だけで生まれるものではありません。家族や地域の皆様、友達や先生など、多くの人との関わりの中で励まされ、支えられながら、一步ずつ成長していきます。挑戦する中で成功を喜び、ときには失敗から学びながら、自分なりの歩みを積み重ねていくのです。

2学期は、運動会や音楽会をはじめ、子どもたちが日頃の学習や活動の成果を発揮する機会がたくさんあります。本番で見せる姿はもちろんのこと、そこに至るまでの努力や仲間との支え合い、悩みながらも前へ進もうとする姿にも目を向けていただければ幸いです。ぜひ学校へ足をお運びいただき、子どもたちの成長する姿をご覧ください。その姿に目を細め、ときには涙腺を緩ませながら、一緒に子どもたちの成長を喜んでいただければと思います。子どもたち一人ひとりが自分のよさを発揮し、充実した2学期を過ごせることを願っています。

今後も、保護者や地域の皆様と力を合わせながら、土合っ子たちの成長を支えてまいります。子どもたちが安心して学び、挑戦し、自分らしく輝けるよう、学校・家庭・地域が一体となって歩んでいければ幸いです。引き続きご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。